

福島裕子, 石井真美, 井上 健
(大阪市立総合医療センター病理部)

【症例】40歳代、女性

【現病歴】

1年前に右単径部の腫瘍を自覚するようになった。増大傾向にあったため2か月後に近医にて腫瘍摘出術を施行。原発不明肉腫の診断であったが詳細不明。その後、当院紹介受診となった。PET/CTにて取り込みを認めず、経過観察していたが、腫瘍摘出7か月後に右単径部に再度腫瘍の増大および外腸骨リンパ節転移を認め、生検が施行された。組織学的には部分的に上皮様結合を認め、免疫組織学的にCD34陽性、INI-1/BAF47蛋白の陰性化を認めたため近位型類上皮肉腫を疑った。化学療法実施後、切除術施行された。

【画像所見】

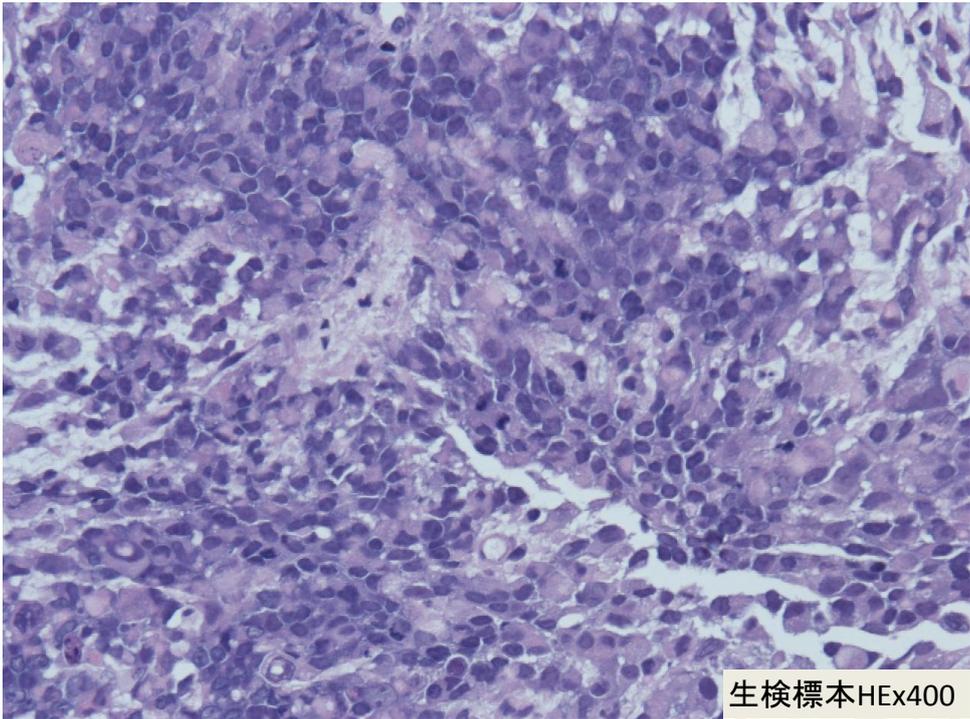
造影CTにて右単径部に2x3cmの造影をうける腫瘍を認める。

【病理組織学的所見】

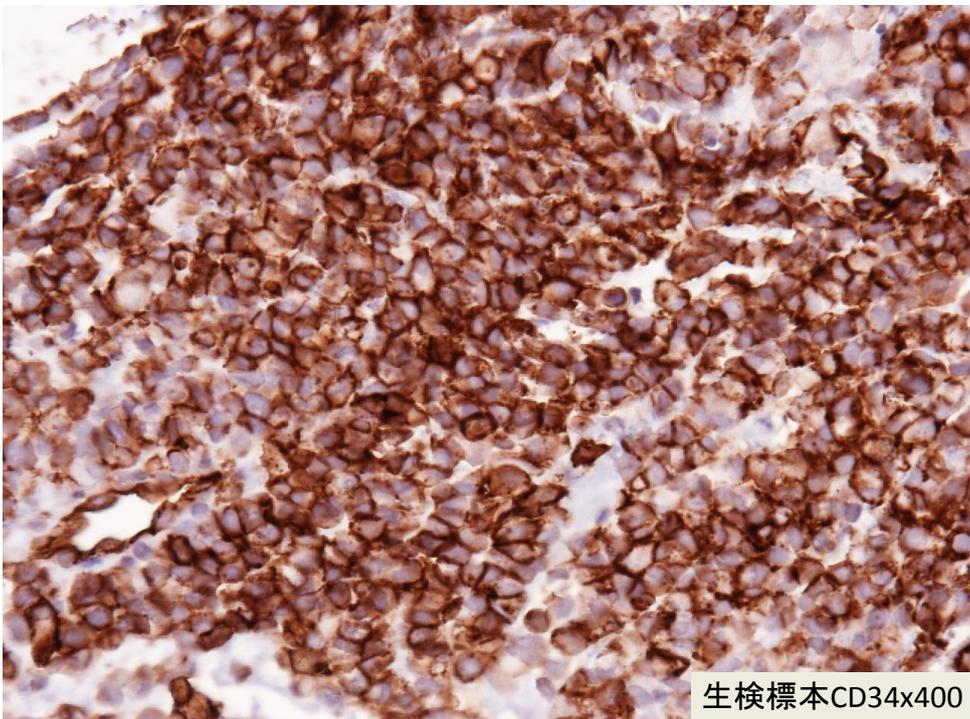
Myxomatousな間質を背景に腫大した円形核と好酸性の胞体を持つ細胞が増生している。核偏在し細胞質内封入体を有するrhabdoid cellも認める。緩やかな配列で上皮様結合を呈している部分やびまん性に散在している部分を認める。また紡錘形細胞が増生している部分も認める。免疫組織学的にCD34陽性、CD99陽性、EMA一部に陽性、cytokeratinAE1/3一部に陽性、 α -smooth muscle actin一部に陽性、p63一部に陽性、GFAP一部に陽性。またINI-1/BAF47蛋白の陰性化を認める。

【配布標本】手術標本の一部

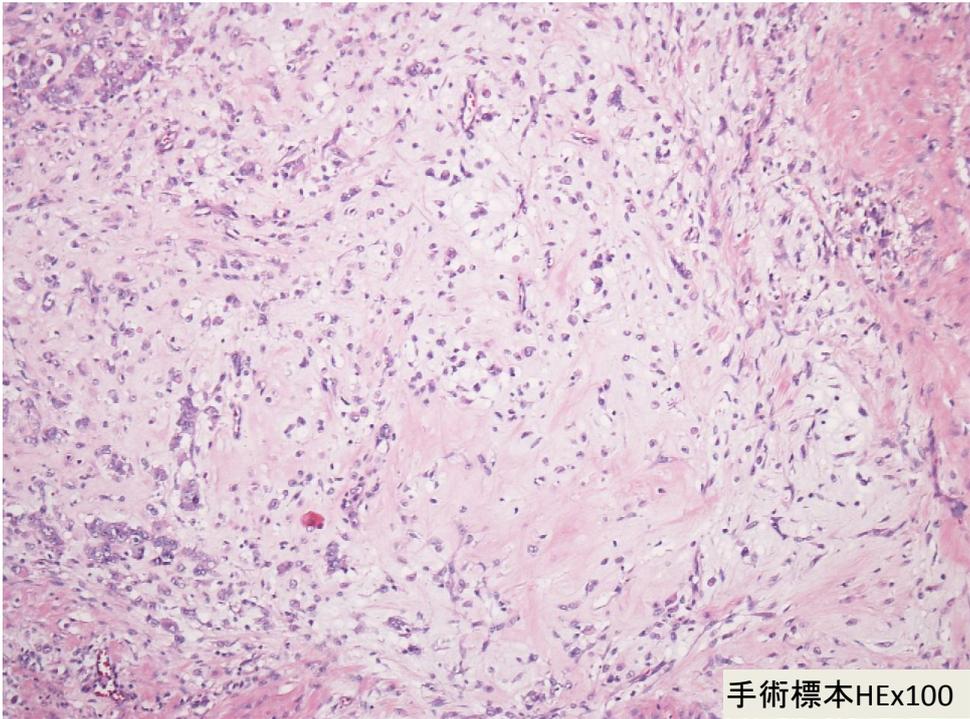
【問題点】病理組織学的診断



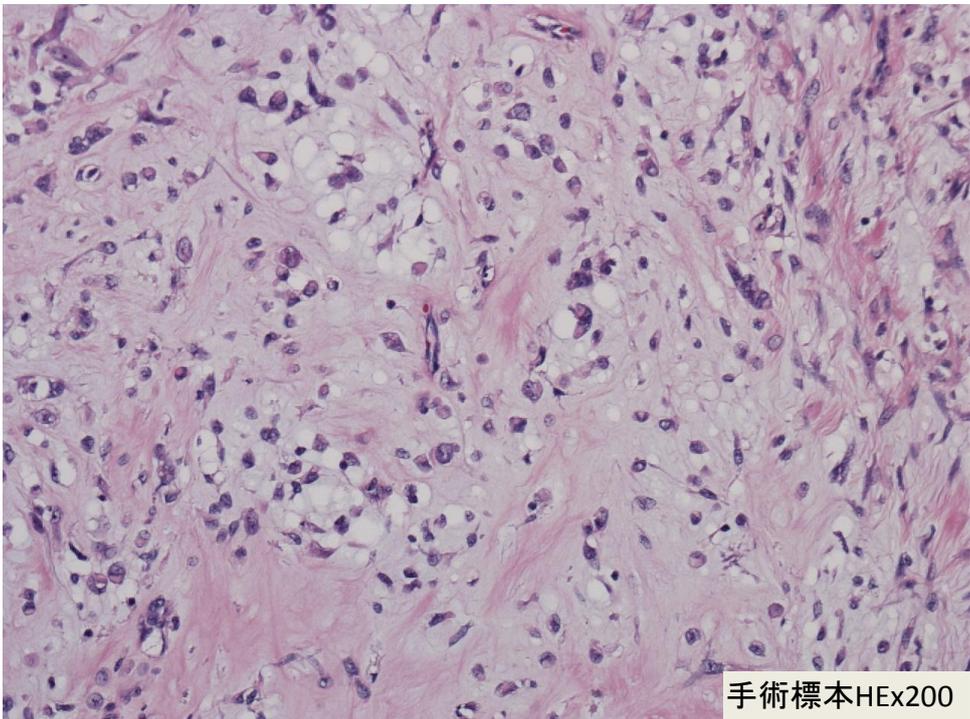
生檢標本HEx400



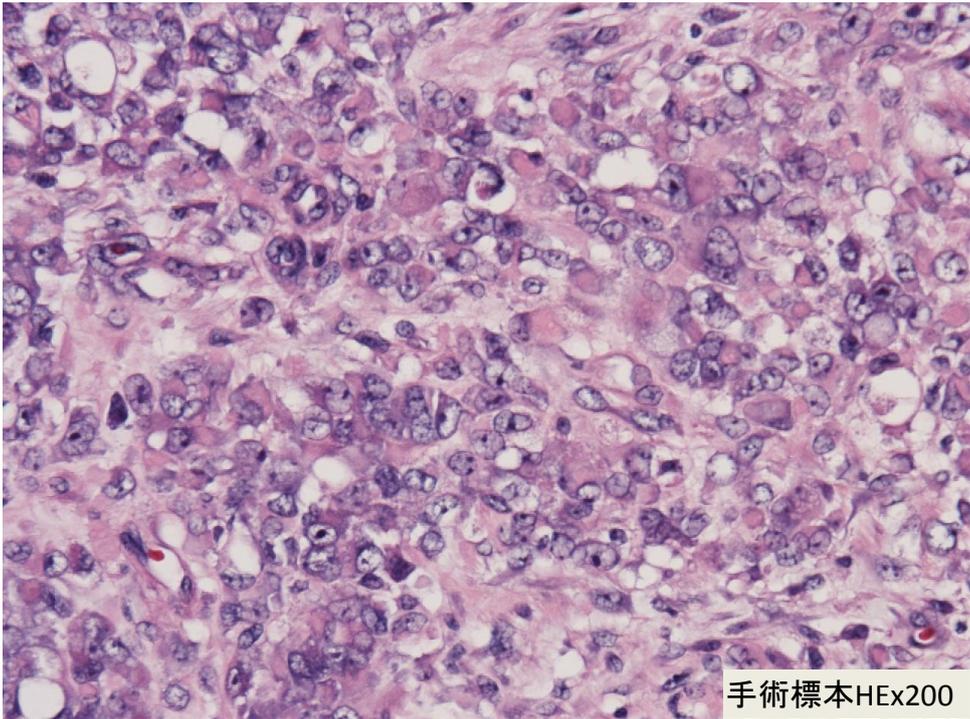
生檢標本CD34x400



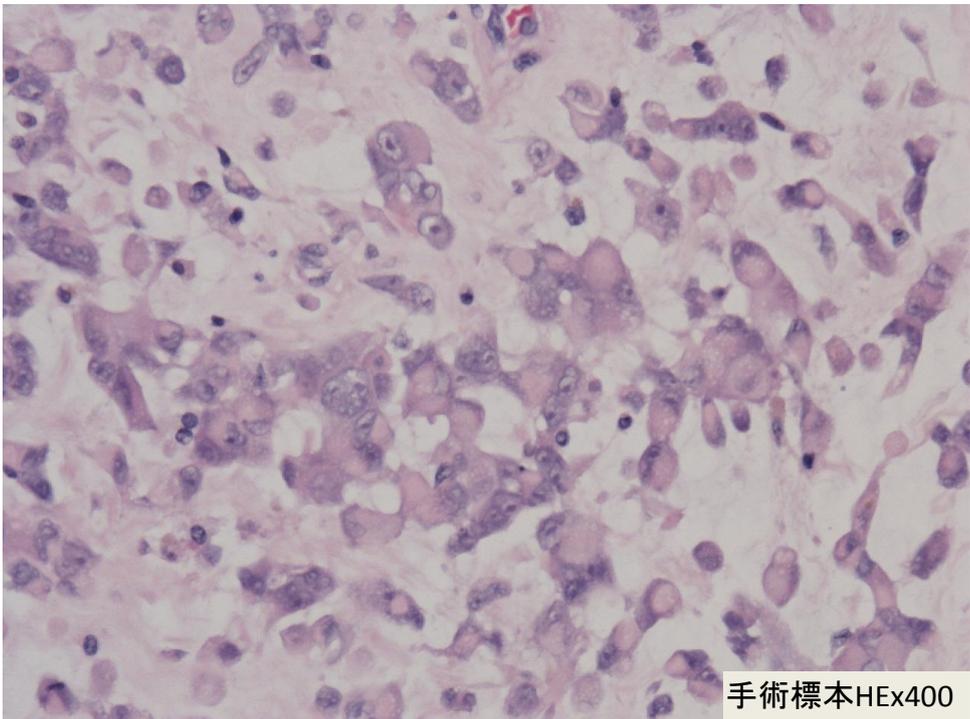
手術標本HEx100



手術標本HEx200



手術標本HEx200



手術標本HEx400